

VI 試合を行う上での注意事項

現在、国際大会においてはピッチクロックの導入など、試合時間のスピードアップ（テンポアップ）の取組みが次々に行われています。高校野球においても、ムダな動きや不要なタイムをなくし、テンポの良いスピーディーな試合進行を心掛けてください。

1 試合をテンポ良く進めるために

- ① 攻守交代時、先頭打者、次打者およびベースコーチは、ミーティングに参加せず速やかに所定の位置につく。タイブレーク時の走者についてもミーティングには参加しない。
- ② 遅延行為と見なされる投手のけん制はしない。（離塁していない走者へのけん制や、不必要と思われる複数回のけん制など）
- ③ 捕手の動作は機敏にする。（投手への返球、速やかなサイン、用具の着脱、バックアップ、打ち合わせのあと、速やかに守備位置へ戻るなど）
- ④ 投球を逸した捕手は、敏速にそのボールを自分で処理する。
- ⑤ 捕手のブロックサインは禁止する。また、内野手から投手へのサインは簡単にする。
- ⑥ 内野手が投手へ返球するときは、ベースライン（塁線）よりマウンド方向に近づかず、速やかに投げ返す。

2 マナーの向上について

- ① 準備投球時、打者や次打者などがダートサークル付近に近づき、タイミングを測る行為はしない。
- ② 投手が捕手のサインを見た後、投球関連動作に入れば、両チームのベンチおよびベースコーチからの声を控える（発声しない）。[捕手の動きでコースを伝える行為等を避けるため]
- ③ 喜びを誇示する派手な「ガッツポーズ」などは、相手チームへの不敬・侮辱に繋がりがかねないので慎む。
- ④ 走者およびベースコーチなどが、捕手のサインを見る行為、打者にコースおよび球種を伝える行為ならびに打者がベンチに投球のコースおよび球種を伝える行為などを禁止する。このような疑いがあるときは、審判委員はタイムをかけ、当該選手および攻撃側ベンチに注意を与え、すぐに止めさせる。
- ⑤ ベースコーチが、打者走者（走者）の触塁に合わせて『セーフ』のゼスチャーおよびコールをする行為はしない。
- ⑥ 本塁打を打った打者の出迎えはしない。
- ⑦ 投手はロジンバッグを投手板の後方に置き、指先だけで使用し、丁寧に取り扱う。
- ⑧ 外部から見える箇所の負傷防護のためテーピングをする場合、必ず試合前に当該選手は申告する。（ベージュ色）

3 規則上特に注意すべき事項について

- ① 投手に基本的なルールを徹底する。(投手板への着き方、自由な足の位置、自由な足の踏み出し、軸足の移動とはずし方、投球動作・ストレッチの中断など)
- ② 野手(捕手)が明らかにボールを持たずに、塁線上および塁上に位置して走者の走路をふさぐ行為をしない。(捕手のブロックなど)
- ③ 送球を妨害する意図を持って、手や足を高く上げる走塁および野手に向かってスライディングする行為をしない。
- ④ 捕手は、ホームプレート直後の位置しなければならない。
- ⑤ 盗塁を助けるために、捕手の送球直前のスイングおよび故意にバッタースボックスから前に入る行為をしない。
- ⑥ 死球を得るために、投球のコースから逃げない行為をしない。

4 その他

- ① 試合開始時および試合終了時に、両校が本塁を挟んで整列して一同がする挨拶は、相手チーム、審判委員、球場関係者など全ての方々に対するものであるため、試合中の様々な場面での『挨拶 [礼]』は不要である。
- ② グラウンド内にいる全ての選手(特に次打者、ブルペンの選手)は、投手が投手板に位置したならばプレイに注目する。また試合中、練習中を問わず、捕手が座って投球を受けるときは(ブルペンも含む)、必ず捕手用具一式を着用する。
- ③ 金属製バットおよびヘルメット(打者用、捕手用とも)の保守、点検を励行する。
- ④ グラブのしめ紐については必ず結び、長さは親指の長さ程度までとする。
- ⑤ ユニフォームの着用にあたっては、胸の第一ボタンをはずしたり、ズボンの裾を長くおろしたりしない
- ⑥ 背番号の位置はユニフォームの襟から10cmのところに台布の上の中央部がくるように付けるとよい。
- ⑦ 試合中にヒットバイピッチ(死球)などで大きな衝撃を受けたヘルメットは、使用しない。
- ⑧ グラウンド内での行動はすべて駆け足を励行する。特に守備につく外野手は自分のポジションまで全力疾走する。
- ⑨ 試合終了後は速やかにベンチを清掃して引き上げる。